

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成 18 年 8 月 3 日 (2006.8.3)

【公表番号】特表 2006-500158 (P2006-500158A)
 【公表日】平成 18 年 1 月 5 日 (2006.1.5)
 【年通号数】公開・登録公報 2006-001
 【出願番号】特願 2004-539805 (P2004-539805)
 【国際特許分類】

A 6 1 B 19/00 (2006.01)

A 6 2 B 18/02 (2006.01)

A 6 1 M 16/06 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 19/00 5 1 2

A 6 2 B 18/02 C

A 6 1 M 16/06 A

【手続補正書】
 【提出日】平成 18 年 6 月 12 日 (2006.6.12)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

フェース・マスクを小出しする方法であって、
 内面と、片手で掴めるようになった外面とを備える成形フェース・マスクを形成し、
 前記マスクの前記内面を隣接するマスクの前記外面に並置し、該マスクを別のマスクに
 対して抱え込み状態で位置決めして、最も外側のマスクを有するスタックを形成するよう
 にし、

前記スタックを保管し、前記最も外側のマスクを小出しするために、複数の壁と、開口
 部を有する弾性ダイアフラムを含む小出し端とをハウジングが有する小出し装置を準備し
 、

前記開口部を通して前記最も外側のマスクの少なくとも一部を掴むことができるように
 、前記スタックを前記小出し装置内に配置し、

前記開口部を通して前記最も外側のマスクを抜き出し、前記弾性ダイアフラムが前記ス
 タックの残りを前記ハウジング内に保持して、取り出し済みマスクに並置されたマスクが
 最も外側のマスクになるようにする、
 ステップを含むことを特徴とする方法。

【請求項 2】

前記外面が、該外面に配置され、該外面から外向きに延びるタブを備え、前記タブが掴
 めるようになったことを特徴とする、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記外面は、各々が該外面に取り付けられた第 1 及び第 2 の端部を有する約 80 ミリメ
 ートルより短い長さのループを備えることを特徴とする、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 4】

前記外面が、上縁部と、下縁部と、第 1 の側縁部と、第 2 の側縁部とを有し、前記第 1
 の側縁部近くの該外面に取り付けられた第 1 の端部と、前記第 2 の側縁部近くの該外面に
 取り付けられた第 2 の端部と、前記第 1 の端部及び前記第 2 の端部の間に配置された折り

曲げ部とを有するループを備えることを特徴とする、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 5】

フェース・マスクのスタックであって、少なくとも一部に接着材料が配置された周縁部を持つ内面と外面とを有する複数の成形フェース・マスクを含み、前記マスクの前記内面が隣接するマスクの前記外面に並置され、該マスクが互いに抱え込み状態で位置決めされることによって形成され、該マスクは、マスクの前記周縁部が並置されたマスクの該外面と接触しないように、並置されたマスク間で一定の間隔を維持するようになったことを特徴とするスタック。

【請求項 6】

前記マスクの形状が、並置されたマスク間で前記間隔を維持するようになったことを特徴とする、請求項 5 に記載のスタック。

【請求項 7】

並置されたマスク間の前記間隔が少なくとも 3 ミリメートルであることを特徴とする、請求項 5 に記載のスタック。